



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2020年7月12日(日) 9:30~12:00 (曇り後晴)

参加者 一般:3名(子ども:0名)、

指導員:5名

テーマ 「チョウやトンボを探そう」

ここ数日降り続いた雨の合間の観察会です。南派川は上流の飛騨川流域の大雨の影響で普段よりずっと水位が高く、高水敷の芝生広場の一部を水没させ、土砂で濁った水が流れていました。

堤防でカワラサイコの花などを見ている時、ニイニゼミの鳴き声が個聞こえてきました。途中で音程が変わるので、他の鳴き声と聞き間違えることはありません。

夏になりいろいろな虫たちが活発に動き出し、先月、オオスズメバチがいた蜂トラップにはカプトムシのメスが入っており、根元で樹液が出ている場所にはキタテハとコガタスズメバチが来ていました。

草原の上を舞うウスバキトンボは数が増えてきました。水辺ではオオシオカラトンボとシオカラトンボが止まっていたが、いずれもオスばかりでした。メスは成熟するまで水辺から少し離れた林縁などにいるものと思われ、あまり見かけません。

大野極楽寺公園の池の縁のヤナギの幹にはやや小振りなノコギリクワガタが数頭見られました。コナラなどブナ科の樹木と同様、ヤナギでもよく見かけます。

その近くでは、ヤブカンゾウの橙色の花が目立ち、毎年ここで咲くツリガネニンジンも数株が花をつけ始めていました。池や水路ではミソハギも咲き始めていました。ミソハギはお盆に墓に供えることから盆花とか精霊花と言われ、盛夏を思い起こさせてくれます。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:トビ、ハシボソガラス、ツバメ、ホオジロ、ムクドリ、キジバト、コゲラ、ウグイス(声)、メジロ(声)

虫:ナミアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ヨツボシノメイガ、コシアキゴンボ、ヤマトタマムシ、チャバネアオカメムシ

花:タイサンボク、ヒナギキョウ、アメリカネナシカズラ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、ミナトマツヨイグサ、ブタナ、コウソリナ、ヒメジョオン、シロツメクサ、セイヨウミヤコグサ、ネジバナ、メリケンムグラ、アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヒメクマツツラ 実:ハクウンボク、エゴノキ



(上流の大雨で増水した南派川)



(ヤナギの幹のノコギリクワガタを観察中)



樹液を吸うキタテハ



今回はコガタスズメバチ



今年も咲いたツリガネニンジン



盆花として使われるミソハギ